

徳島県みなと緑地広場ワークショップ

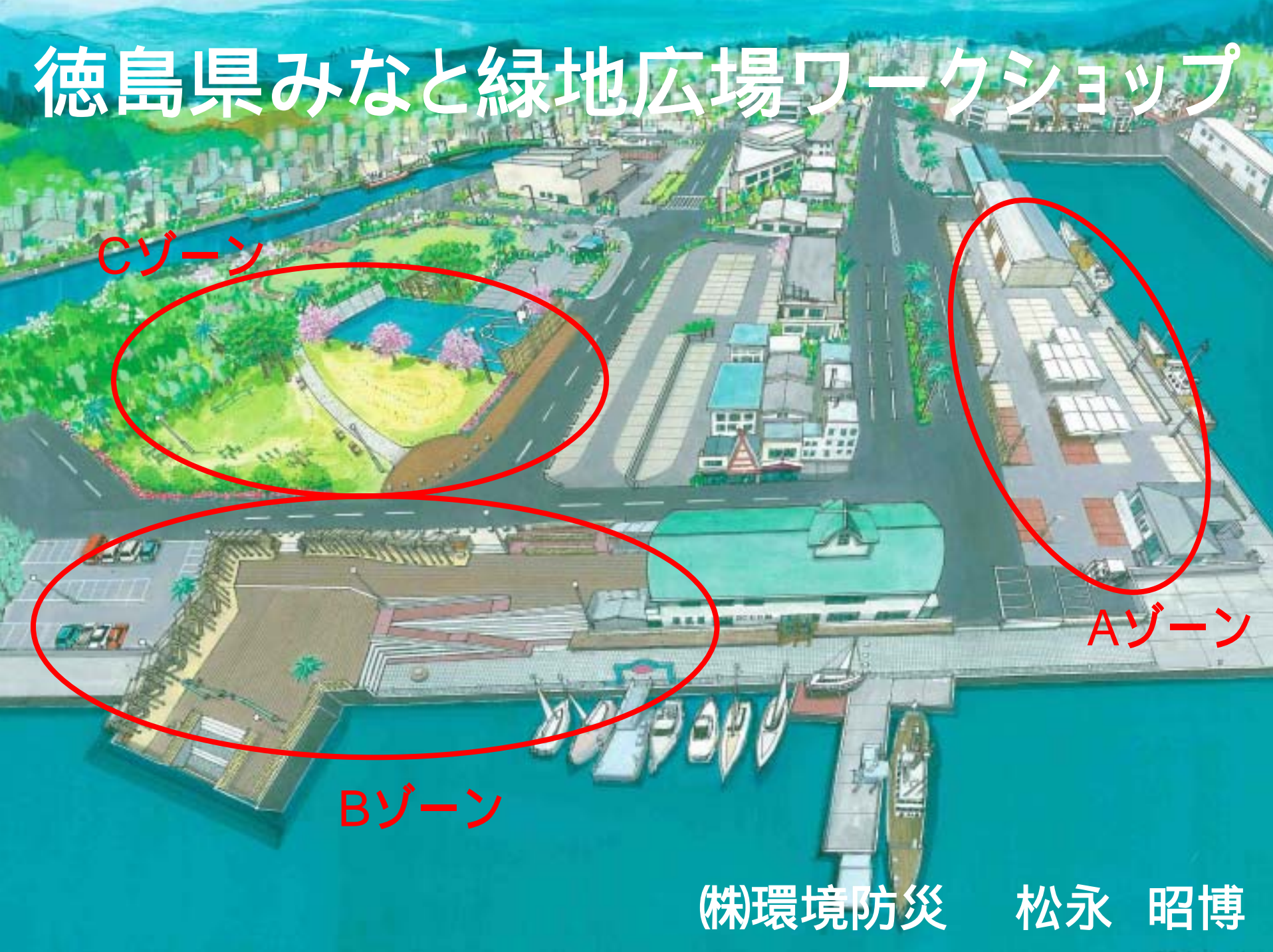
Cゾーン

Aゾーン

Bゾーン

(株)環境防災

松永 昭博



小松島市本港地区

小松島市の概要

人口 43,000人、面積 45km²

徳島県有数の港湾都市として発達

本港地区の状況

1998年 明石海峡大橋開通

南海フェリーの航路移転

港湾施設の遊休化

1999年 みなと再生の取り組みが始まる

2002年 NPOこまつしま設立

2004年 みなとオアシス登録

しおかぜ公園

Cゾーン

Bゾーン

Aゾーン

小松島みなと交流センター

Kocolo

上位計画

- 2004年3月、ミニWSを開催し港空間づくりの市民提案を策定。
- 今回の設計に際して、徳島県は市民提案の一部を手直した案をみなと緑地広場の基本構想に位置づける。

港空間づくりプランの市民提案

【小松島本港地区における港空間づくりプランの市民提案】

プランニング平面図

Aゾーン

多目的広場ゾーンとして、駐車場と多目的広場を整備。

Bゾーン

交流ゾーンとして、ウッドデッキ、パラソルによる賑わい空間の創出。陸地型ハーバーで収入を得ながら港の風景をつくる。

Cゾーン

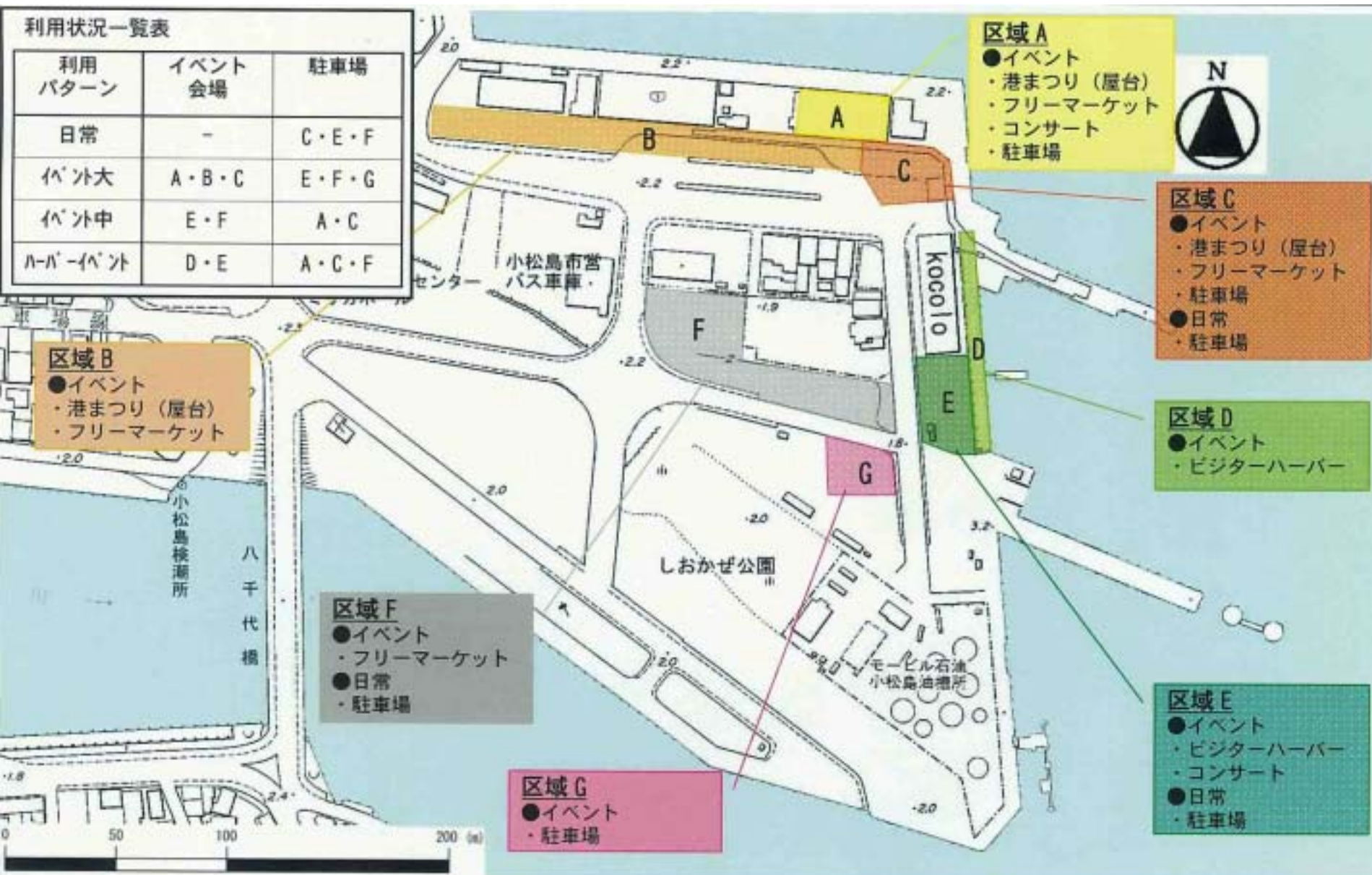
スポーツ広場ゾーンとして、しおかぜ公園と交流ゾーンをつなぐ遊歩道とスポーツ広場を整備。

- 【アプローチ整備】のポイント
 - ・ミリアホーテ～交流ゾーン、しおかぜ公園～交流ゾーンを結ぶ動線を整備する。
 - ・歩道の幅員を見直し、自転車道を整備する。
 - ・車と自転車歩行者を分離し、安全で人に優しい道路整備を行う。
 - ・治安の確保、後のイメージアップのため、照明施設を整備する。
 - ・南国イメージの緑を整備（既存の緑も活かしながら）
 - ・しおかぜ公園など既存施設の有効利用。
- 【交流ゾーン整備】のポイント
 - ・ウッドデッキ、パラソルにより賑わい空間を創出する。
 - ・陸地型ハーバーにて、収入を得ながら港の風景をつくりあげる。（橋付設備）
 - ・物産市などの商業活動の実践スペース。
 - ・駐車場の適切な配置。
- 【koccolio「開整備」】のポイント
 - ・外回りと一体化した賑わい空間の創出。
 - ・小松島作中産直流通センターのスペースをオープンに利用。
 - ・若者や家族連れが休日を楽しめるスペースの整備。
 - ・食や物産台などによる「食のスペース」をつくる。
 - ・物産屋やおしゃれな100円ショップ。
 - ・子育て、親子の集いスペースの提供。

S=1:1,000



現況施設の利用状況



計画地の現状と整備課題

岸壁より60cm
下がった地盤高



Aゾーンからkocoloを見る(イベント時)

水辺へのアクセス
を限定する防潮堤

高くなった南側棧
橋周り

裏のイメージ



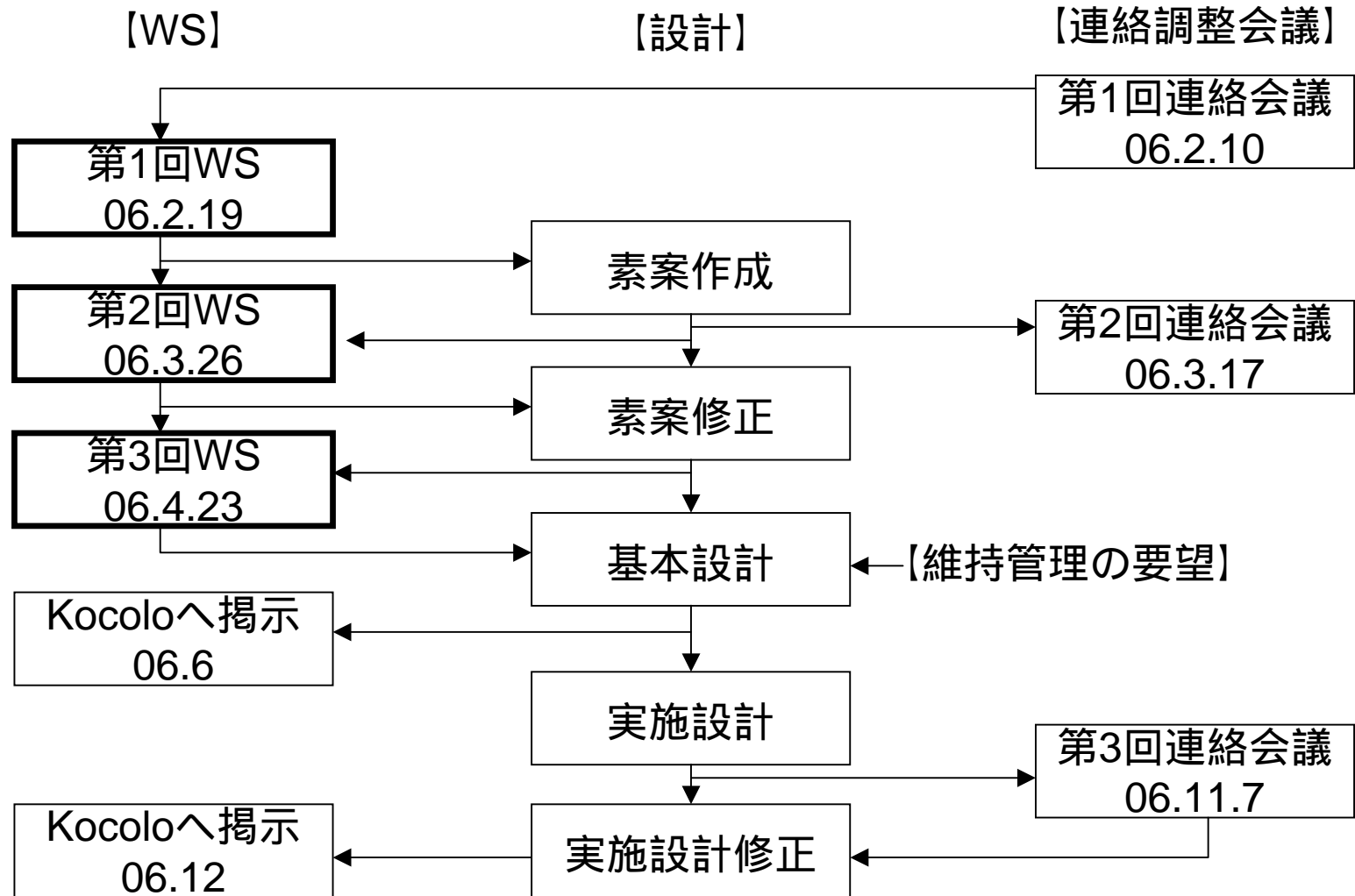
Bゾーンからkocoloを見る

kocoloとしおかぜ
公園の分断



KocoloからCゾーンを見る

WSのプロセス



WSの開催概要とプログラム

回	日時	内 容	
		情報共有	検 討
第1回 WS	2006年 2月19日(日) 9:00～12:30 46名	これまでの取り組み 検討区域と制約条件 施設の利用状況 現地確認	【計画地の情報抽出】 利用、活動の情報 必要な機能や欲しい施設 参加(施工、管理段階)
第2回 WS	2006年 3月26日(日) 9:00～12:30 36名	第1回WSのふり返し みなと緑地広場素案説明	【広場の素案を考える】 応援意見と修正意見 【参加のアイデアの確認】 確認と意見交換
第3回 WS	2006年 4月23日(日) 9:00～12:30 36名	第2回WSのふり返し みなと緑地広場案の説明 質疑応答	【参加について】 これまでの検討情報確認 参加プログラム選び プログラムのランキング

WSの参加形態

属性		W S			連絡調整会議		
		1回	2回	3回	1回	2回	3回
市 民	一般	8名	4名	4名	3名	2名	2名
	高校生	5名	5名	6名			
	教師	3名	2名	2名			
	NPO	14名	10名	9名	4名	6名	4名
行政		11名	10名	10名	8名	7名	10名
コンサル		5名	5名	5名	3名	2名	3名
合計		46名	36名	36名	20名	18名	19名

WSの広報

参加者募集

- 徳島新聞折り込みチラシ : 14,130部
- 直接訪問 : 高校2校、中学1校、商工会議所、JC、国交省小松島港湾事務所
- 電話・FAX : 婦人会、土曜市、小学校2校、海上保安部、漁協、JA、小松島市、
- 置きチラシ : kocoloに案内文書を置く
- ダイレクトメール : NPOこまつしまの会員へ案内状発送(約40通)

情報公開

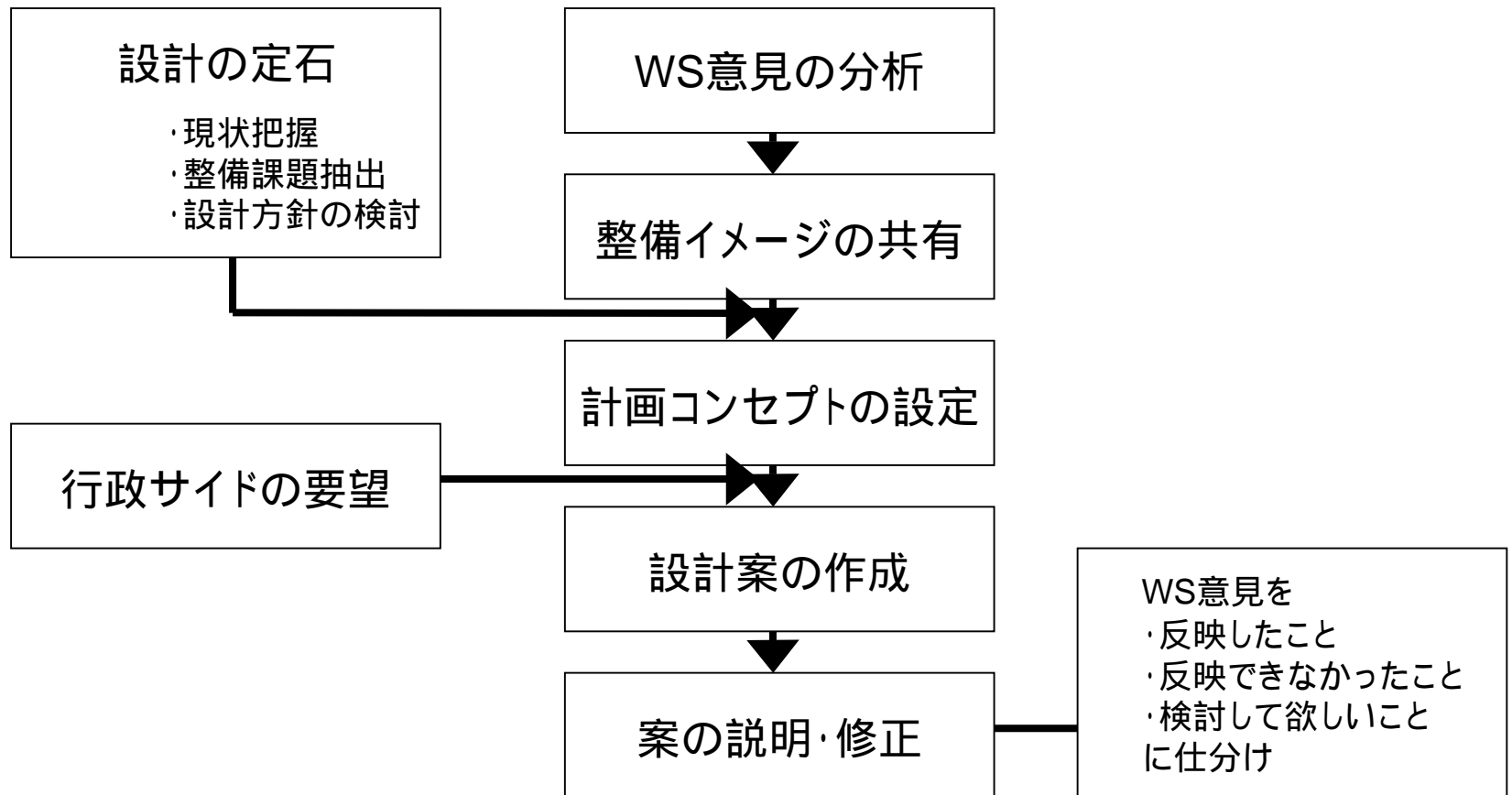
- ワークショップたより配布 : 各回のWS開催時に配布(約40~50部)
- ワークショップたより置きチラシ : kocolo内にたよりを置く
- 設計図面の掲示 : kocolo内に掲示

WSの特徴

- NPO法人 港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま(略称:NPOこまつしま)がワークショップの企画運営にあたる。
- NPOこまつしまとボランティア認証制度を交わす地元高校の生徒が参加し、まちづくり分野と教育分野が連携した。
- 市民、NPOこまつしまの会員、行政の参加比率がほぼ1:1:1であった。
- 2004年の市民提案作成時の参加者や本港地区でまちづくり活動を展開する人など地区の状況に精通した人が参加した。



設計案づくりの進め方



AゾーンのWS意見と整備イメージ

整備イメージ / 常時の駐車場を備えた開放感のあるフリーマーケット広場

キーワード	意見の概要
駐車場	・不足 ・kocolo利用者のメイン駐車場の適地 ・イベントにも臨時駐車場にも使えるように。
イベント対応施設の充実	・電気、水道、平坦な舗装 ・障害物の無い広い空間
舗装	・バリアフリー ・水はけのいいもの ・フリマブースと駐車ますを認識しやすく。
空間の使い方	・段差の解消と動線確保 ・周辺との一体的利用(車道をほこ天にした時など)
安全対策	・車道への飛び出し防止
樹木	・イベントには邪魔 日常的には緑が必要

BゾーンのWS意見と整備イメージ

整備イメージ / 海を眺めながら過ごすハーバーイベント広場

キーワード	意見の概要
ウッドデッキの広場	<ul style="list-style-type: none">・2004年の市民提案から続くテーマ・ベンチやテーブルを並べてオープンカフェ・パラソルショップなどのお店
日陰づくり	<ul style="list-style-type: none">・夏の日差しや雨をしのぎたい。・住家になっては困る。暗くなるのもいや。
イベント対応施設の充実	<ul style="list-style-type: none">・特にコンサートへの対応、海をバックにコンサート
陸地型ヨットハーバー	<ul style="list-style-type: none">・ここにしかない風景をつくる。・NPOの自主運営が可能で収益源にもなる。
港のシンボルやタワー	<ul style="list-style-type: none">・小松島のシンボルや港をアピールするもの。
空間の使い方	<ul style="list-style-type: none">・kocoloの海側出入口との一体化
安全対策	<ul style="list-style-type: none">・海への転落防止・夜間照明

CゾーンのWS意見と整備イメージ

整備イメージ / しおかぜ公園と一体となった健康とスポーツの広場

キーワード	意見の概要
しおかぜ公園との一体的整備	<ul style="list-style-type: none">・しおかぜ公園がどこにあるかわからない。・しおかぜ公園へのわかりやすい動線の確保
スポーツ広場と臨時駐車場	<ul style="list-style-type: none">・ミニバスケットなどができるスポーツ広場に・駐車場不足
防犯と植栽保全	<ul style="list-style-type: none">・うっそうとしている樹木の撤去(明るい空間に)・現況の樹木をできるだけ残したい。(環境保全)
健康	<ul style="list-style-type: none">・健康をキーワードに・森のフィットネス
園路広場	<ul style="list-style-type: none">・園路は自然的なイメージの舗装・入口広場は小さく。・スポーツ広場と入口広場の間に小高い丘

維持管理面での要望

キーワード	意見の概要
防草	・舗装材の目地から雑草が生えないように 清掃が大変
耐久性のある素材	・長く使えるように ちょっとずつ補修はできない。 ・老朽化してささくれ等が出にくいもの。 苦情が出る。
安全対策	・ヤシの木を撤去する。 葉が落ちて危険、樹高が高くて作業車が届かない。 ・ハイライトの増設 kocolo東側の岸壁が真っ暗
放置車両対策	・駐車場に車を乗り捨てられないように

みなと緑地広場整備のコンセプト

1 マルチユースデザイン

- 日常の利用、イベントの利用や多様なイベントに使えるデザインとする。

2 空間の一体的利用

- 既存の施設(kocolo、しおかぜ公園、岸壁など)と整備する広場が一体的に使えるデザインとする。

3 ユニバーサルデザイン

- 子どもから大人、高齢者、障害者まで、すべての人が使いやすいデザインとする。

4 安全・安心な空間づくり

- 事故防止と防犯性を高めたデザインとする。

5 維持管理がしやすい施設づくり

- 維持管理が容易で手間のかからないデザインとする。

コンセプトの具体化

コンセプト	具体化の方法
1 マルチユースデザイン	作りこまないで広い空間を確保する。 施設の兼用化 イベント対応施設の充実
2 空間の一体的利用	動線の確保(つなぐ) 障害を取り除く。 向こうを見せる。(行ってみたい気持ちになる。)
3 ユニバーサルデザイン	幅の確保と緩勾配 段差の解消 行き止まりをなくす。
4 安全・安心な空間づくり	転落防止と飛び出し防止 死角を無くした明るい空間 照度の確保
5 維持管理がしやすい施設づくり	防草 放置車両防止 耐久性のある材料の選択と構造の工夫

設計案に反映できなかったWS意見

理由の分類	意見と反映しなかった理由
補助事業対象外	<ul style="list-style-type: none">・足湯・陸地型ヨットハーバー(駐車場としてスペースのみ確保)
事業の範囲外	<ul style="list-style-type: none">・kocolo建物を異人館風に修景(小松島市の所有物)
維持管理コスト大	<ul style="list-style-type: none">・ゴミ箱設置(コストとエコライフの視点)
計画の合理性を欠く	<ul style="list-style-type: none">・フットサルグラウンド(防球対策が困難)・デッキの床をガラスに(ガラスにしても海は見えない)・スポーツ広場のAs舗装やめる(Asはバスケットに向く)
WSで収れんした意見の反対	<ul style="list-style-type: none">・ウッドデッキをコンクリートデッキに・スポーツ広場を芝生広場に

WSで検討をお願いした意見

意見	お願いした理由	検討結果
トイレの設置	<ul style="list-style-type: none">・設置に費用がかかる。・イベント時しか利用されない。・維持管理の負担を誰が？	<ul style="list-style-type: none">・トイレは設置しない。
修景材としての手形プレート類	<ul style="list-style-type: none">・市民が作ったプレート類を建設材料として買って、埋設することは可能なため。	<ul style="list-style-type: none">・現在までに結果は出ていない。
港のシンボルやタワー	<ul style="list-style-type: none">・補助事業対象外だが、オブジェ風の時計台などは可能なため。	<ul style="list-style-type: none">・モニュメントやオブジェの設置スペースを確保する。
既存の自転車置場	<ul style="list-style-type: none">・ウッドデッキ広場の支障になるため。	<ul style="list-style-type: none">・移設する。
スポーツ広場の大きさ	<ul style="list-style-type: none">・ミニバスケット2面の大きさがリーズなのかどうかを見極めるため。	<ul style="list-style-type: none">・ミニバスケット2面で問題無し。

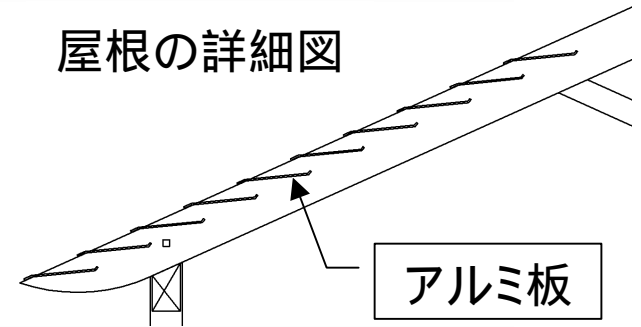
トレードオフ関係にあったWS意見

項目	トレードオフ関係の意見		結果
Aゾーンの植栽計画	イベント時、植栽は邪魔、少なく。	日常的に緑陰や憩いの空間として必要。	2列を1列にしたり、徐々に減らすが、最後は無くす。
Bゾーンの休憩施設の屋根	夏の日差しや雨をしのぐ屋根がある。	パーゴラのように明るい方がいい。	アルミ板を重ねて屋根に。構造の工夫。
岸壁部の構造	ヨットへの物資供給のため車を入れる。	ウッドデッキを貼って車を入れない。	頻度少ないのでヨットを優先。
Cゾーンの現況樹木	うっそうとしているので樹木を撤去。	既存の植栽は極力残す。	クスノキの大木を残し明るい空間に。
Cゾーンのスポーツ広場	臨時駐車場としても使えるように。	スポーツ専用広場に。	兼用できる構造に。

Bゾーン休憩施設の屋根の構造

アルミ板を重ねて屋根をつくる。雨、日差しの防御と通風、採光の確保

屋根の詳細図



みなと緑地広場計画平面図

スポーツ広場と臨時駐車
車を兼用

Cゾーンの現況樹木
は大幅に撤去

Aゾーンの植栽
計画をやめる

【トレードオフ関係にある意見の解決策】

1. 両立の道を探る。
2. 折衷案を考える。
3. 合理的な理由で選択する。
4. 声の大きい意見に従う。

Bゾーンの休憩施
設の屋根を工夫

港なのでヨットの利便性を優先
し、車が入れるように



